

健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について (平成30年度)

健康科学大学健康科学部地域連携推進委員会

坂本宏史¹ 成田崇矢¹ 黒崎真樹²

中村圭一² 瀧口 綾³ 古川 奨³

¹健康科学大学 健康科学部 理学療法学科 ²健康科学大学 健康科学部 作業療法学科

³健康科学大学 健康科学部 福祉心理学科

Collaborative activities of Health Science University with Fujikawaguchiko town in 2018

SAKAMOTO Hiroshi, NARITA Takaya, KUROSAKI Masaki,
NAKAMURA Kei-ichi, TAKIGUCHI Aya, FURUKAWA Tsutomu

要 旨

本年度（平成30年度）、健康科学大学健康科学部地域連携推進委員会が、「健康科学大学と富士河口湖町との包括連携協定（平成22年3月24日締結、以下包括連携協定）」に関連して行った活動を中心にまとめた。

「包括連携協定」の目的の一つである「知的財産の共有」に関連して、本学教員が地域住民に対して「健康科学大学 公開講座（富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座）」を開く一方、本学河口湖キャンパスに町役場の職員を特別講師として招き、本学学生を対象に地域行政の基本や富士河口湖町の取り組みや課題について解説する「地域連携の理論と実際」を開催した。

本学ボランティアセンターに登録している学生は、健康科学部・看護学部を合わせて、270名（平成30年10月1日現在）あり、富士河口湖町内外の地元団体の要請に応じて延べ364名がボランティア活動に参加した。また、ボランティア活動の一環として毎年恒例となっている富士河口湖町内の清掃活動「ウォーク・クリーニング隊」が5月27日（日）に行われ、40名の学生ボランティアが参加した。

キーワード：地域連携、包括的連携協定、ボランティアセンター、知的財産の共有

I. はじめに

この報告では、平成30年度に健康科学大学（以下、本学）地域連携推進委員会が関わった活動をまとめると同時に、「健康科学大学と富士河口湖町との包括連携協定（平成22年3月24日締結、以下、包括連携協定）」の目的に基づいて、活動の成果を総括した。

1. 地域連携推進委員会総会

6回目となる「富士河口湖町・健康科学大学地域連携推進委員会総会」が7月18日に富士河口湖町役場において開催された。富士河口湖町からは渡辺喜久男 町長をはじめ連携事業に関わる各部署の代表が5名、本学からは荒木 力 健康科学大学（本学）学長をはじめ7名が出席した。（図1a,b）。前述の「包括連携協定」に基づいて平成



図1a,b 地域連携推進委員会総会

29年度に行われた活動の報告や、平成30年度の活動予定が確認された。本学の町への協力、特にフランスのトライアスロンチームが町を訪れた際(5月)や、「まちフェス」(7月)での学生ボランティア活動に対して、町側から謝意が述べられた。さらに町の代表から、介護の現場への学生ボランティアの可能性について、要介護者に対するサービス業務委託の可能性について質疑があった。また、例年本学学生が中心となり行われるウォーク・クリーンアップ隊において特定外来植物のアレチウリ駆除の協力依頼があった。本学からは通学路の整備や町内施設を利用して行う学生のサークル・部活動の施設利用料の優遇について要望が出された。

2. 富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

本事業は、前述した本学と富士河口湖町の「包括連携協定」を結ぶきっかけとなったものであり、

平成30年度(本年度)で10年目を迎える。本年度は、本学の教員から広くテーマをつのり、全4回の講座を予定している(表1)。

3. 地域連携の理論と実際

本講座では、本学に地域行政の専門家である富士河口湖町の職員を特別講師として招いて、「行政全般」、「福祉」、「文化」、「健康増進」などにかかわる町の取り組みや課題を紹介してもらっている。前述の「包括連携協定」が結ばれたことにより実現した大変特色のある講座である。本年度は、4回の大学における講義(図2a-d)と富士河口湖町主催の清掃活動への参加(図3a-c)を通して、興味をもった取り組みや課題について、学生がグループ単位で町役場職員や担当教員の指導を受けながら調査・研究を行い、最終的に研究発表会を行った(図2e,f)。本年度は、40名の受講者があった。

表1 H30 健康科学大学・富士河口湖町 地域連携講座

回	講座名	講師	日時	場所
1	活気ある長寿社会をつくろう	作業療法学科教授 神谷 直樹	平成31年2月23日	富士河口湖町 中央公民館
2	食と健康	福祉心理学科助教 柁木 隆寿	平成31年2月23日	富士河口湖町 中央公民館
3	足腰の衰えと肥満は共存する！？ 運動を用いたサルコペニア肥満の 予防方法	理学療法学科講師 高木 大輔	平成31年3月9日	富士河口湖町 中央公民館
4	認知症を知ろう！	看護学部看護学科助教 佐野宏一郎	平成31年3月9日	富士河口湖町 中央公民館



図2a-d 総合基礎科目「地域連携の理論と実際」の様子 高山特別講師
(2a, c, d)、杉本特別講師 (2b) による講義

4. 学生のボランティア活動

平成23年に全学的なボランティアセンター（以下、センター）が開設されてから、地域連携推進委員会がその運営に関わってきた。センターには専任のスタッフが常駐し、おもな業務として、ボランティア情報の提供、ボランティアに関する相談やコーディネートを行っている。またセンターに登録する学生に、ボランティアに関する情報をメール配信している。さらにセンターでは、ボランティアの依頼元を選別したり、傷害保険を紹介したり、学生に不利益がないよう努めている。

本年度10月1日現在、270名（理学療法学科：107名 作業療法学科：89名 福祉心理学科：55名 看護学科：19名）がボランティアセンターに登録されている。表2に本年度（9月30日現在）の学生のボランティア参加状況を示す。

「包括連携協定」が締結されて以来、本学学生と富士河口湖町役場職員、富士河口湖町民有志「まちづくりワークショップ」を主体として毎年「ウォーク・クリーニング隊」を結成し、河口湖畔の清掃活動を行ってきた。本年度も、5月27日（日）に、町主催の「富士河口湖町1万人の清掃



図3a-c 学生による町内清掃活動（5月27日「富士河口湖町 1万人の清掃活動」へ参加）

活動」に合わせてウォーク・クリーニング隊が結成され、前述の「地域連携の理論と実際」受講者40名が参加した（図3a-c）。

Ⅱ. まとめ

富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

本年度の公開講座は本学独自の開催となったため、本学の専門教育科目担当教員ならびに基礎教育科目担当教員それぞれの専門が活かせるように特にテーマを絞らなかった。2学部4学科から公開講座を担当する教員を募集して、全4回行われることとなった。

昨年までとは開催方法が変更され、開催時期が遅くなった。この報告の編集日程の都合により、詳細については別の機会に報告したいと考えている。

地域連携の理論と実際

本講座は地域行政について、専門家から現場の話を聞くことができる大変貴重な機会であるため、受講できる対象を広くし、「総合基礎科目」として開設している。現在、健康科学部（河口湖キャンパス）の学生をのみが講義対象ではあるが、本年度前期に40名の受講があった。

表2 平成30年度 月別 学生ボランティア参加状況

月・地域／ 学科・学年	理学療法学科					作業療法学科					福祉心理学科					総合計	
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
4 富士河口湖					0					0		1	3		4	4	17
4 富士吉田					0					0		2	2		4	4	
4 甲府					0					0		2	7		9	9	
5 富士河口湖	10				10	7				7	17	1	2		20	37	66
5 富士吉田			2		2					0	5	2	2		9	11	
5 甲府	1				1	3				3	3	2	9		14	18	
6 富士河口湖	1				1	9				9	19		3		22	32	61
6 富士吉田					0	2				2	4	2	8		14	16	
6 甲府					0					0	4	3	6		13	13	
7 富士河口湖	15				15	8				8	5		2		7	30	89
7 富士吉田	13				13	12				12	9	2	2		13	38	
7 甲府	2				2	4				4	4	2	9		15	21	
8 富士河口湖					0	1				1	1	2	2		5	6	76
8 富士吉田					0					0	7	1	3		11	11	
8 甲府	2	2			4	14				14	26	4	11		41	59	
9 富士河口湖	6	2			8	2				2	3	3	5		11	21	55
9 富士吉田					0					0	7	2	10		19	19	
9 甲府					0	1				1	3	4	7		14	15	
前期計	50	4	2	0	56	63	0	0	0	63	117	35	93	0	245	364	364

今後も日程を本学「教務委員会」と相談しながら、多くの学生が受講できるよう便宜を図ってきたい。

学生のボランティア活動

昨年度の登録者は245名、ボランティア活動参加者は延べ48名であった（平成29年10月1日時点）。今年度の登録者数（270名）は昨年に比べ増加し、ボランティア活動参加者も延べ364名（平成29年10月1日時点）と、大きく増加した。学生サポートセンター内に開設されているボランティアセンターには専任の職員が常駐しており、学生にとってボランティア活動へのアクセスが良いことに加え、昨年度まで休講となっていた学生のボランティア活動を奨励する講座「ボランティア活動の実践」が、今年度開講されたことも大きな効果を上げたと考えている。さらに、福祉心理学科の学生によるボランティア活動参加者数が際立っており（表2）、福祉心理学科をあげての理解度の高さがうかがえる。ボランティア活動への参加は、学生が社会経験を積む上で、また医療・福祉を学ぶ本学の学生がコミュニケーション能力を向上させる上で、とても良い機会になると思われるので、今後も多くの学生の参加を促す努力を

していきたい。

参考文献

- 地域連携推進委員会 石黒友康 他：富士河口湖町との地域包括連携における大学の役割、健康科学大学紀要 Vol. 7, 35-49, 2011.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成23年度）健康科学大学紀要 Vol. 8, 129-138, 2012.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成24年度）健康科学大学紀要 Vol. 9, 105-112, 2013.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成25年度）健康科学大学紀要 Vol. 10, 119-126, 2014.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成26年度）健康科学大学紀要 Vol. 11, 183-190, 2015.
- 地域連携推進委員会 加藤智也 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成27年度）健康科学大学紀要 Vol. 12, 83-89, 2016.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成28年度）健康科学大学紀要 Vol. 13, 97-103, 2017.
- 地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成29年度）健康科学大学紀要 Vol. 14, 239-245, 2018.